

まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市の戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料、建築・交通・環境などの図書、研究機関・シンクタンクなどの調査研究報告書などを収集しています。

特集 荒子観音寺

中川区荒子町にある荒子観音寺は甚目寺、龍泉寺、笠寺とともに尾張四観音の一つで荒子観音とも呼ばれます。天平元年（729年）泰澄和尚の草創といわれ、本尊は聖観世音菩薩で泰澄和尚の一刀三礼の作とされています。

天平13年（741年）に自性上人が七堂伽藍十二僧坊を建立、開山し、一大霊場として栄えましたが、後に衰退し、永禄年間に僧全運が再興しました。その後たびたび寺運の変化があり、天正4年（1576年）寺運衰頹のなか、荒子城主前田又左衛門利家が観音寺本堂を茅葺で再建しています。

天台宗の古刹であり、現在は本堂、多宝塔、護摩堂、六角堂、鐘堂、仁王門などの伽藍が境内に配置され、このうち多宝塔は天文5年（1536年）に再建、名古屋市内に現存する最古の多宝塔であり、国の指定重要文化財です。濃尾地震の際にも倒壊をまぬがれ、山門とあわせて、平成3年（1991年）に名古屋市の都市景観重要建築物等に指定されています。

荒子観音寺の山門には金剛力士像があり、これは延宝4年（1676年）秋、住職の円盛の招きにより円空が制作した仁王像です。また、円空は仁王像を造った際の余材を使って様々な大小数千体の像を刻みました。

昭和にはいり、多宝塔から木箱に入った小さな仏像千体余りが発見されました。現在、荒子観音寺には円空仏が1,250体余り残されています。毎月第2土曜日には、円空仏の公開が行われており、円空仏を所蔵する寺としてもよく知られています。



- ◆参考文献 ※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。
 『愛知県写真帖』愛知県／著 (Sc-ア)
 『中川区の歴史』山田寂雀／著 (Sc-ア)
 『目でみる 愛知の江戸時代 上』国書刊行会／編 (Sc-コ)
 『名古屋の史跡と文化財（新訂版）』名古屋市教育委員会／編 (Sc-ナ)
 『「東海学」事始め』森浩一／著 (Sc-モ)
 『中日新聞「開府400年なごや古今往来」全記事録』
 名古屋市住宅都市局まちづくり企画部歴史まちづくり推進室／編 (Se-ナ)
 『中川区史』中川区制施行五十周年記念誌編集委員会／編 (2B21-87)

まちづくりライブラリー資料展

「名古屋のなりたち
清須越～戦災復興～未来へ」展
2015年10月6日(火)～12月23日(水)



2015年は戦後70年の節目の年にあたります。戦災復興事業の収束を記念し、平成3年に「復興記念館・名古屋都市センター」が設立されました。

市域の4分の1を焼失し、戦災で多大な被害を受けた名古屋。戦後、いち早く計画され、実行にうつされた戦災復興土地地区画整理事業を中心に名古屋のまちの成り立ちや変遷を清須越から戦前の都市計画、焦土からよみがえったまちとともに未来にむけての名古屋のまちづくりを紹介しています。

職場体験・インターンシップの受付

名古屋商業高校2名の生徒が、まちづくりライブラリーにて図書・雑誌に関する業務、受付業務、資料展示業務等を体験しました。

また、夏季インターンシップとして、名古屋市内の4大学から4名の学生を受入れしました。

新着図書紹介

『日本の最も美しい図書館』

著者：立野井一恵／文
出版社：エクスナレッジ
請求記号：Pa-タ

本書では「美しい」をテーマに、公共・大学図書館問わず41の図書館がセレクトされ、その特徴をとらえた写真とともに紹介されています。

図書館といえば、本を借りる・学習するという場所でしたが、近年その在り方は変わってきています。24時間開館している、カフェを併設しており飲食可能など人々が集まる場所としての役割も果たしています。

歴史的建造物を活用しているレトロな図書館から、著名な建築家が設計した最新の図書館まで幅広く取り上げられています。

『まちづくり学への招待
どのようにして未来をつくっていくか』

著者：オオバ技術本部
出版社：東洋経済新報社
請求記号：Ca-オ

前半では、まちづくりとは何か、まちづくりの歴史や知識、具体的にどのように進められているか、そしてまちづくりの専門家である建設コンサルタントの役割についてわかりやすく解説されています。

後半では、「まちづくりの未来」と題し、コンパクトシティ、防災・減災、新エネルギーなどの観点から持続可能なまちづくりについてまとめられています。

この本を通して、まちづくりの多様性と魅力を知っていただければと思います。



『東海和菓子名店』

著者：大竹敏之・森崎美穂子
出版社：びあ
請求記号：Se-オ

数ある名店の中から厳選された35店を取材し、茶席で供される四季折々の繊細で美しい生菓子、長く愛されるご当地銘菓など、工芸菓子・定番の土産菓子・郷土菓子を取り上げています。

お店の方々とお菓子の写真、「東海和菓子 こぼれ話」と名付けられたコラム、和菓子用語解説もついており、とても楽しい一冊です。暑さも落ち着いたこの頃、この本を手にとり和菓子屋さんを巡ってみませんか。

